

ペルシャ湾情勢に関する石油化学工業協会コメント(続報)

令和8年5月27日

石油化学産業は、製造業の最上流に位置し、原油を精製して作られる石油製品の一種であるナフサ等を原料とするプラスチック等の石油化学製品を、日用雑貨品、食品包装材、衣料といった身の回り品や自動車、家電・電子機器等の様々な製品の素材として供給する産業である。

2月末のホルムズ海峡の実質封鎖以来、当協会の各会員企業においては、国内石油精製からのナフサ調達の継続、中東以外からのナフサ調達の拡大及び製品在庫の活用により、石油化学製品の供給継続に全力を尽くしている。

現在のところ、令和8年3月及び4月ともに国内出荷においては、製品毎に差は見られるが全体として供給は維持できており、ポリエチレンやポリプロピレンといった主要石油化学製品の在庫についても国内需要の3ヶ月以上の水準を維持している。

また、会員各社による継続的な中東以外の地域からのナフサの代替調達の確保が進み、従来は2割程度であった中東以外からの輸入ナフサの量は5月には大幅に増加する見込みとなっている。

政府からもナフサ由来の化学製品の供給は年を越えて継続できる見込とされており、石油化学製品の供給は、5月以降も平年並みの供給が見込まれており、引き続き需要を満たすべく安定供給を維持していく。

当協会としては、引き続き、国及び会員企業と密接に連携しつつ関連情報収集や必要な措置の徹底など安定供給に必要な対応を行っていくこととしている。

最後に、当協会としては、事態が一刻も早く収束し、ペルシャ湾地域における船舶の安全航行が回復することを強く求めるものである。

【本件に関するお問合せ】

石油化学工業協会

志村、武井 TEL 03-3297-2019

2026 年 5 月 28 日

会員企業のお取引先様 各位

ウレタンフォーム工業会

硬質ウレタンフォーム断熱製品の生産状況および安定供給に向けたお願い

平素より、硬質ウレタンフォーム断熱製品をはじめとする当工業会関連製品の普及につきまして格別のご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

現在、会員企業におきましては、需要動向の変化により製品ごとに差異は見られるものの、最大限の努力を行い、製品の生産および出荷の継続に努めております。

また、政府によれば、石油備蓄の放出や代替調達の進展により原油や石油製品について、日本全体として必要となる量は確保されている状況であり、ナフサ由来の化学製品の供給は、年を超えて継続できる見込みです。

さらに、5 月 27 日のペルシャ湾情勢に関する石油化学工業協会コメントを踏まえれば、石油化学製品が 5 月以降も平年並みの供給が見込まれることから、硬質ウレタンフォーム断熱材製品についても、今後も前年同月並みの生産・供給量を維持できる状況にあります。

当工業会といたしましても、こうした状況を踏まえ、経済産業省および会員企業との連携を一層密にし、安定した製品供給の確保に努めてまいります。

一方で、実需を大きく上回る発注や、仮需的・先行的な発注が生じた場合、業界全体に多大な影響を及ぼす可能性がございます。つきましては、上記のとおり通常時と同様の生産・出荷が継続可能であるとの見通しをご理解いただき、安定的な製品供給を維持するためにも、実需を超える発注や先行的な発注はお控えいただき、適正な数量・時期でのご発注を賜りますよう、改めてお願い申し上げます。

何卒ご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2026 年 5 月 28 日

会員企業のお取引先各位

フェノールフォーム協会

フェノールフォーム製品の生産状況ならびに安定供給に向けたお願い

平素より、フェノールフォーム製品等、当協会関連製品の普及および安定的なご採用に格別のご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

当業界におきましては、昨年度（2025 年度）4 月の「改正建築物省エネ法」施行（すべての新築住宅・非住宅への省エネ基準適合義務化）および、今年度（2026 年度）4 月からの「中規模非住宅建築物における省エネ基準の引き上げ（厳格化）」に伴い、高性能断熱材に対する需要が増加しております。

現在、会員企業におきましては、需要動向の変化により製品ごとの差は見られるものの、例年同等の生産・出荷に努めており、業界として一定の供給水準を維持しております。

また、政府によれば、石油備蓄の放出や代替調達進展により原油や石油製品について、日本全体として必要となる量は確保されている状況であり、ナフサ由来の化学製品の供給は、年を越えて継続できる見込みです。

フェノールフォーム業界全体といたしましても、本年 3 月及び 4 月については、前年同月比以上の供給を実施しております。また、5 月 27 日のペルシャ湾情勢に関する石油化学工業協会コメントを踏まえれば、石油化学製品が 5 月以降も平年並みの供給が見込まれることから、平年並みの生産が出来る見通しが立つようになりますので、引き続き、経済産業省および会員企業と連携のうえ、生産および供給体制の維持・安定化に最大限努めてまいります。

しかしながら、こうした環境下において、一部で実需を大きく上回る発注や、先行的・仮需的な発注が増加傾向にあるとの報告が寄せられております。

このような動きは、需給のさらなる逼迫を招き、安定供給に支障をきたす可能性がございます。

つきましては、安定的な製品供給を維持する観点から、下記の通りご協力をお願い申し上げます。

記

1. 実需に基づく適正なご発注のお願い

実需を上回る過度な発注や先行発注はお控えいただき、適切な数量・時期でのご発注をお願い申し上げます。

2. 市況動向へのご理解と冷静なご対応

不確実性の高い状況ではございますが、業界として安定供給の維持に努めてまいりますので、過度なご心配による発注の集中はお控えいただきますようお願い申し上げます。

当協会といたしましては、引き続き関係省庁および会員企業と連携し、供給状況の改善および安定化に努めてまいります。

お取引先各位におかれましては、諸事情をご賢察のうえ、何卒ご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

以上

2026 年 5 月 29 日

会員企業のお取引先各位

キッチン・バス工業会
会長 小森 大

当工業会関連製品の安定供給に向けたご協力のお願い

平素よりキッチン・バス関連製品の普及・発展に格別のご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

4 月は、一時的に一部の部材において多少不安定な状況がみられましたが、現在、会員企業においては、需要動向の変化から製品毎に差は見られるものの、概ね通常時と同様に関連製品の生産や出荷をしており、業界として、システムバス（ユニットバス）製品について、前年並みの供給に努めております。

加えて、政府によると、代替調達や備蓄石油の放出により、原油やナフサの国内需要は確保されつつあり、ナフサ由来の化学製品の供給は、年を越えて継続できる見込みです。

また、5 月 27 日付のペルシャ湾情勢に関する石油化学工業協会コメントによりますと、石油化学製品が 5 月以降も平年並みの供給が見込まれるとの情報です。

当工業会としては、原料メーカー様からの安定供給の見通しが立つことにより、会員企業において生産を継続し、通常時の発注を前提とした安定的な製品供給の維持が可能となる見込みです。

一方で、引き続き、一部製品においては通常時を上回る発注が増加傾向であり、こうした事情から納期の遅延などが生じているとの報告が寄せられております。

実需を上回る仮需的な発注や先行的な発注は、業界全体に深刻な影響を及ぼす可能性がございます。引き続き、安定的な製品供給を維持するため、実需を上回る仮需的な発注や先行的な発注はお控えいただき、適正な数量、時期でのご発注を賜りますよう、ここに改めてご協力をお願い申し上げます。

何卒ご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

【参考】システムバス（ユニットバス）の 3 月、4 月の出荷台数

	前年同月比	2026 年	2025 年
4 月	99%	10.5 万台	10.6 万台
3 月	102%	10.5 万台	10.3 万台

※出典：キッチン・バス工業会自主出荷統計

令和8年5月29日
塩化ビニル管・継手協会

中東情勢悪化に伴う塩化ビニル管・継手の供給について

平素より、当協会及び会員各社の活動に関し、格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、本年2月末以降の中東情勢悪化に伴い、我々会員各社とも、その影響を注視しつつ、塩化ビニル管・継手製品の安定供給に最大限尽力して参りました。この結果、令和8年3月及び4月とも、前年同月を上回る生産量、出荷量を達成することができました（注参照）。

また、石油化学工業協会が5月27日付で発表した「ペルシャ湾情勢に関する石油化学工業協会コメント（続報）」によると、石油化学製品の供給は、5月以降も平年並みの供給が見込まれているとのことであり、これを踏まえると、塩化ビニル管・継手製品についても、5月以降原料調達に支障をきたすことなく、平年並みの生産、出荷を維持できるものと見込んでいます。

会員各社としては、引き続き経済産業省をはじめ関係省庁と連携を密にして、製品を需要者の皆様に確実にお届けできるよう、不断の努力を続けて参ります。

また、当協会としても、関係省庁及び関係団体と連携し、需要者の皆様へ適切な情報発信に努めて参ります。

需要者の皆様におかれては、引き続き現下の状況に対するご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

以上

注）塩化ビニル管・継手 生産・出荷統計はこちら

会員企業のお取引先様 各位

中東情勢の影響に係る押出発泡ポリスチレン工業会からのお知らせ
(第2報)

令和 8 年 5 月 29 日

押出発泡ポリスチレン工業会

平素より「押出法ポリスチレンフォーム断熱材・保温材」をご採用いただき、また弊工業会関連製品の普及・発展に格別のご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨今の中東情勢の影響により、市場の一部では通常時を上回る発注量の増加や納期に関するご相談が生じているとの報告を受けております。しかしながら、各会員企業の自主的な生産・出荷活動の結果として、3 月、4 月は前年同月比で概ね同水準の供給が維持されている状況です。

また、政府発表によれば、石油備蓄の放出や代替調達進展により、原油・石油製品については、日本全体としては必要となる量は確保されている状況であり、ナフサ由来の化学製品の供給は、年を越えて継続できる見込みとのことです。さらに、5 月 27 日付「ペルシャ湾情勢に関する石油化学工業協会コメント(続報)」においても、石油化学製品が 5 月以降も平年並みの供給が見込まれる旨が示されています。これらの情報を踏まえ、ポリスチレン樹脂につきましても、原料メーカー様からの安定供給の見通しが立つことにより、会員企業におきましては生産を継続し、前年同月比で同等レベルの安定供給が可能となる見込みとの報告を受けています。

つきましては、需要家の皆様におかれましては、現下の状況をご理解いただき、実需を踏まえた適正な数量・時期でのご発注を賜りますようお願い申し上げます。仮需的な発注が増加した場合、市場全体の物流や生産計画に影響を及ぼす可能性があるため、ご協力をお願いするものです。

当工業会といたしましては、引き続き政府および関係機関からの情報収集に努め、会員企業に対して適宜情報提供を行って参ります。





協会からのお知らせ

硝子繊維協会加盟グラスウールメーカーの生産・販売状況について

2026.5.29

会員企業のお取引先各位

グラスウール（短繊維）製品はナフサ由来の原料を用いての製造は行っておりませんが、出荷工程の中で発生する本体の表皮材や梱包材などにおいて塗料やビニール資材を活用しております。こうした各種工程を経て、最終需要家の元に流通いたしますが、市場の一部では通常時を上回る発注量の増加が生じているとの報告を受けております。

足下、硝子繊維協会に加盟する主に建築用グラスウール（短繊維）を製造する3社の生産量の前年比は3月度：100.6%、4月度：101.2%、販売量の前年比は3月度：101.3%、4月度は114.9%（いずれも経済産業省の生産動態統計による）と前年度並の生産、販売を行い安定供給に努めております。

また、政府によれば、石油備蓄の放出や代替調達進展により原油や石油製品について、日本全体として必要となる量は確保されている状況であり、ナフサ由来の化学製品の供給は、年を超えて継続できる見込みです。さらに、5月27日のペルシャ湾情勢に関する石油化学工業協会コメントを踏まえれば、石油化学製品が5月以降も平年並みの供給が見込まれることから、グラスウール（短繊維）製品についても、必要な副資材を含め、今も前年同月並みの生産・供給量を維持できる状況にあります。

一方、実需を大きく上回る発注や、仮需的・先行的な発注が生じた場合、業界全体に多大な影響を及ぼす可能性がございます。つきましては、上記のとおり今後も前年同月並みの生産・供給量を維持できる見通しをご理解頂き、実需に基づいたご注文をいただきますようお願い申し上げます。

弊協会におきましても、引き続き政府と密な連携をとり、できる限りの対応に努めて参ります。

◇硝子繊維協会 建築用グラスウール（短繊維）会員会社

旭ファイバーグラス株式会社

マグ・イゾベール株式会社

日東紡績株式会社〔長繊維・短繊維(パラマウント硝子工業株式会社)〕

2026年5月29日 硝子繊維協会